

本県高等学校教育改革の状況

＜目 次＞

I 「21世紀を展望した本県高等学校教育の在り方について」 に基づく県立高等学校教育改革の取り組み	
1 総合学科の拡充	・・・ 1
2 普通科の全日制単位制の導入	
3 特色ある学科・コースの設置	
4 中高一貫教育の導入	
5 衛生看護科の改編	
6 総合選択制の導入	
7 定時制教育の整備	
8 中学校卒業生数の減少に対応した適性規模・配置等	・・・ 4
II 本県高校教育の現状と課題	
1 中学校卒業生数の減少と学校規模	・・・・・・ 7
2 進路状況（青森県）	・・・・・・ 10
3 特色ある学科	・・・・・・ 11
4 普通科と職業学科	・・・・・・ 12
5 校舎制・定時制	・・・・・・ 13
6 中高一貫教育	・・・・・・ 15
7 第2次計画以降の中学校卒業生数	・・・・・・ 16

I 『21世紀を展望した本県高等学校教育の在り方について』に基づく県立高等学校教育改革の取り組み

1 総合学科の拡充

既に設置済みの尾上総合高校及び七戸高校の2校に加え、平成14年度に大湊高校、平成15年度に青森中央高校、木造高校、平成17年度に深浦高校に総合学科を設置しました。

2 普通科の全日制単位制の導入

平成16年度に青森東高校、平成18年度に八戸北高校へ導入しました。平成20年度には弘前南高校へ導入することとしています。

3 特色ある学科・コースの設置

特色ある学科として、これまでの人文科や英語科、外国語科、国際教養コース、情報コース等の特色ある学科・コースの他に、新たに以下の学科・コースを設置しました。

① スポーツ科学科・コース

(青森北高校、弘前実業高校、八戸西高校、野辺地高校)

各種スポーツの実践を通じて、体育・スポーツに関する専門的な知識や高度な技能を習得し、本県におけるスポーツ振興の指導的役割を担う人材を育成します。

②美術科(青森戸山高校)

美術に関する創造的活動を通じて、美術に関する能力や感性を高め、本県における芸術文化の振興に寄与する人材を育成します。

③表現科(八戸東高校)

演劇、音楽や伝統芸能などの学習を通じて、表現力を総合的に養うとともに、豊かな情操や協調性、創造性を持つ人材を育成します。

4 中高一貫教育の導入

市町村立中学校と県立高等学校が、教育課程の編成や教員・生徒間交流等の連携を深めるかたちで中高一貫教育を行う「連携型中高一貫教育」を田子高校(田子中学校)と大湊高校(大湊中学校)に導入しました。

平成19年度には、広く上十三全域及び三戸郡からも生徒が入学しており、

大学進学等に優れた実績を残している三本木高校の校舎内に、新たに県立中学校を設置し、「併設型中高一貫教育」を導入することとしています。

5 衛生看護科の改編

法律の改正により、准看護師養成のための専門科目の時間数が増大し、高校3年間で履修することが困難となったことから、県立高等学校4校に設置されていた衛生看護科の募集を停止し、新たに5年一貫教育による看護師養成のための看護科を黒石高校に設置しました。

6 総合選択制の導入

在籍する学科内の科目選択に留まらず、生徒の興味・関心や進路選択に応じて、他の学科の科目を選択できる総合選択制を、弘前実業高校に導入しました。

7 定時制教育の整備

定時制高校については、社会の変化に伴い、生徒の多様化や就業形態の変化などにより、その役割が大きく変化しています。

このことから、生徒の多様なニーズに応えられるよう、定時制独立校である北斗高校及び八戸中央高校に、午前、午後、夜間の時間帯で授業を行う3部制を導入しました。

また、定時制工業高校への入学者数の減少に対応し、青森工業高校、弘前工業高校及び八戸工業高校の定時制については、既設の学科を統合し、1学科1学級としました。

社会の変化や生徒の多様化に対応した学校・学科の整備等

項目		計画	第1次計画 (H12~16)	第2次計画			
				17	18	19	20
総合学科の拡充			大湊 (H14) 青森中央 (H15) 木造 (H15)				
普通科の全日制単位の拡充			青森東 (H16)		八戸北		弘前南
新たな 学科 設置	スポーツ科学科		青森北 (H12) 弘前実業 (H13) 八戸西 (H13) 野辺地(コ-ス) (H12)				
	美術科		青森戸山 (H15)				
	表現科		八戸東 (H15)				
中高一貫教育	連携型の導入		田子高⇄田子中 (H13) 大湊高⇄大湊中 (H14)				
	併設型の導入					三本木高校 に県立中学校を併設	
衛生看護科(看護科)の改編			[5年一貫教育] (H14) 黒石 [募集停止] (H14) 五所川原 三沢・田名部				
定時制教育	3部制の導入				八戸中央 北斗		
	工業高校の学科統合				青森工業 弘前工業 八戸工業		

8 中学校卒業生数の減少に対応した適正規模・配置等

本県では、これまで、生徒数の減少に対し、既存の学校を可能な限り存続させることを前提に、大規模校を中心に学級減を進め、小規模校については、学級定員の引下げを進めました。

この結果、市部の学校では志願倍率が高いまま推移しています。

一方、町村部の小規模校においては、市部の学校への入学希望者の一部が進路変更して入学してくることにより、ほぼ入学者数が募集定員を満たしているものの、地元生徒の占める割合が低くなっている学校と、少子化の影響等により大幅な定員割れが生じている学校があります。

今後さらに中学校卒業生数が減少する中、これまでと同様の考え方により対応した場合、市部の学校の学級減を一層進めなければならないこととなり、生徒やその保護者の進路希望とますますかけ離れる状況となります。

このため、本計画では、教育の機会均等や全県的バランスも考慮しつつ、適正な学校の規模・配置計画について、平成16年10月時点における行政区域を基に、以下の方針により策定しました。

- ①現在ある分校は、平成20年度までに募集停止とします。
- ②市部の学校については、1学年4～8学級を維持することとし、3学級以下の学校については、平成20年度までに募集停止とします。
- ③町村部の1学年3学級以下の学校については、地元生徒の志願・入学状況を踏まえ、学級減等を行い、1学級募集とする学校については、全学年が1学級規模となった段階で校舎制に切り替えます。

なお、上記の①～③による学級減だけでは、計画期間内の生徒数の減少に対応できないことから、さらに市部の県立高等学校について、学級減を実施することとなります。

また、県立高等学校（全日制課程）の募集停止及び校舎制移行の実施年度については、原則として、次のとおり実施しますが、志願者が大幅に増加し、地元生徒がその大多数を占めるなど、志願・入学状況に大きな変化が生じた場合には、実施年度を先送りする可能性も残すこととします。

- * 校舎制・・・校舎制の学校では、教員の派遣や行事の共同開催など、本校舎との間でより緊密な連携を図り、教育内容の充実に努めます。

県立高校（全日制課程）の募集停止及び校舎制移行の実施年度

学校名		年 度				備 考
		17	18	19	20	
東青	平内高校				1学級募集	22年度 青森東高校平内校舎
	今別高校	1学級募集		青森北高校 今別校舎		
西北五	木造高校 稲垣分校				募集停止	21年度末 閉校
	木造高校 車力分校	年度末閉校				16年度 募集停止
	深浦高校	1学級募集		木造高校 深浦校舎		
	五所川原東高校	1学級募集		五所川原高校 東校舎	募集停止	21年度末 閉校
中弘南黒	大鰐高校	1学級募集		弘前南高校 大鰐校舎		
	藤崎園芸高校		1学級募集		弘前実業高校 藤崎校舎	
上十三	野辺地高校 横浜分校	募集停止	年度末閉校			
	八甲田高校	1学級募集		七戸高校 八甲田校舎		
下北むつ	川内高校		1学級募集		大湊高校 川内校舎	
	大畑高校		1学級募集		田名部高校 大畑校舎	
三八	南郷高校				1学級募集	22年度 八戸北高校南郷校舎

県立高等学校（全日制課程）の募集停止及び校舎制移行の実施年度については、原則として、上記のとおり実施しますが、志願者が大幅に増加し、地元生徒がその大多数を占めるなど、志願・入学状況に大きな変化が生じた場合には、実施年度を先送りする可能性も残すこととします。

平成20年度における県立高等学校（全日制課程）の規模・配置

学級数	東 青	西北五	中弘南黒	上十三	下北むつ	三 八
8学級	青森工業		弘前工業 弘前実業			八戸工業
7学級	青森 青森東		弘 前	三 沢		八 戸
6学級	青森西 青森北 青森南 青森戸山 青森商業	木 造	弘前中央 弘前南	三本木 三本木農業 十和田工業	田名部	八戸北
5学級	青森中央	五所川原 五所川原農林 五所川原工業	黒 石	百 石 三沢商業	大 湊 むつ工業	八戸東 八戸西 八戸南
4学級			柏木農業 黒石商業	野辺地 七 戸		八戸水産 八戸商業
3学級		鯡ヶ沢 板 柳	岩 木 浪 岡	六 戸		五 戸 三 戸 名久井農業
2学級		金 木 中 里 鶴 田	尾上総合	六ヶ所 十和田西	大 間	田 子 南部工業
1学級	平 内 今 別	深 浦	大 鰐 藤崎園芸	八甲田	川 内 大 畑	南 郷
募 集 停 止		五所川原東 木 造・ 稲垣分校		野辺地・ 横浜分校		

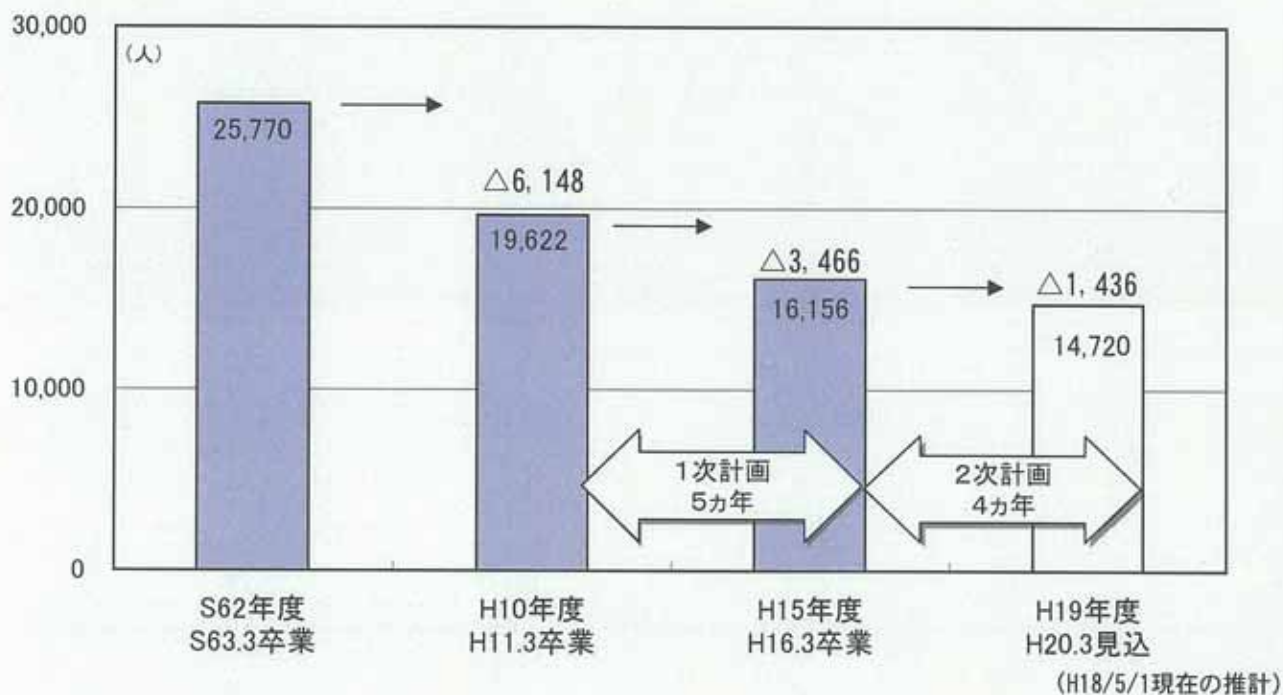
- ※ 網掛けの学校は、平成19年度以降学級減となる学校です。
- ※ 農業高校、工業高校及び水産高校については、原則として1学級35人編制とします。
- ※ 農業高校については、学級減に伴い、学科改編を行います。

II 本県高校教育の現状と課題

1 中学校卒業生数の減少と学校規模

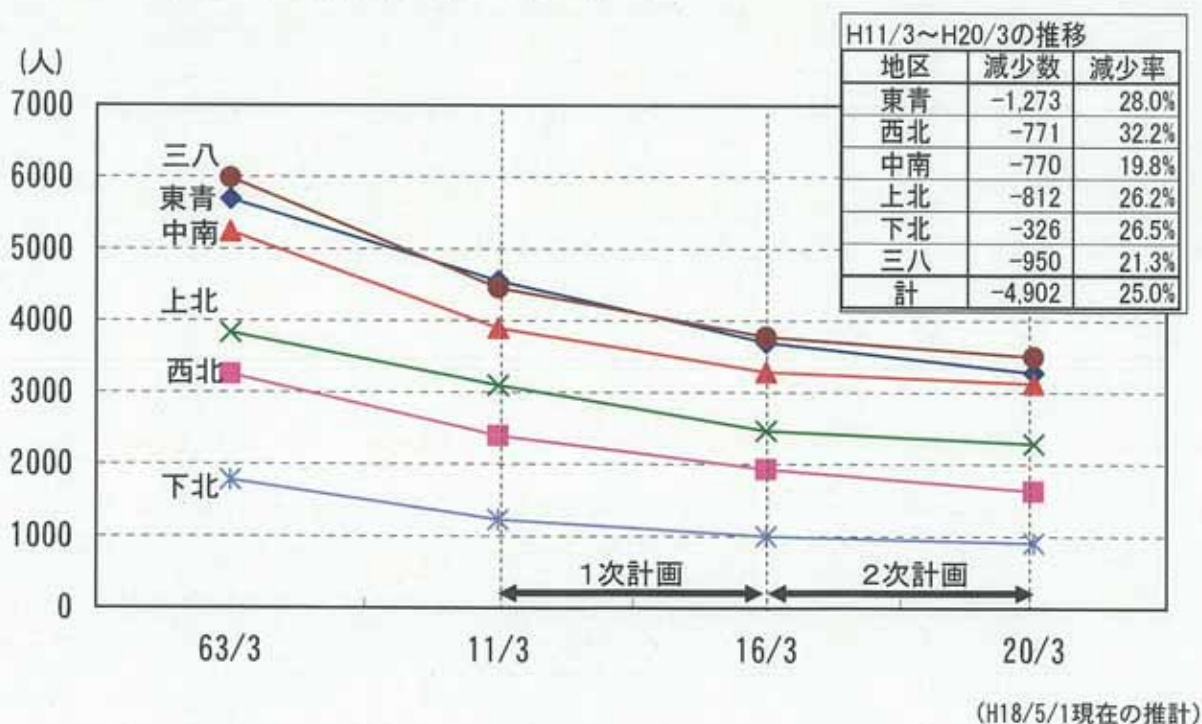
(1) 中学校卒業生数の推移

・第1次計画期間:3,466人減、第2次計画期間1,436人減



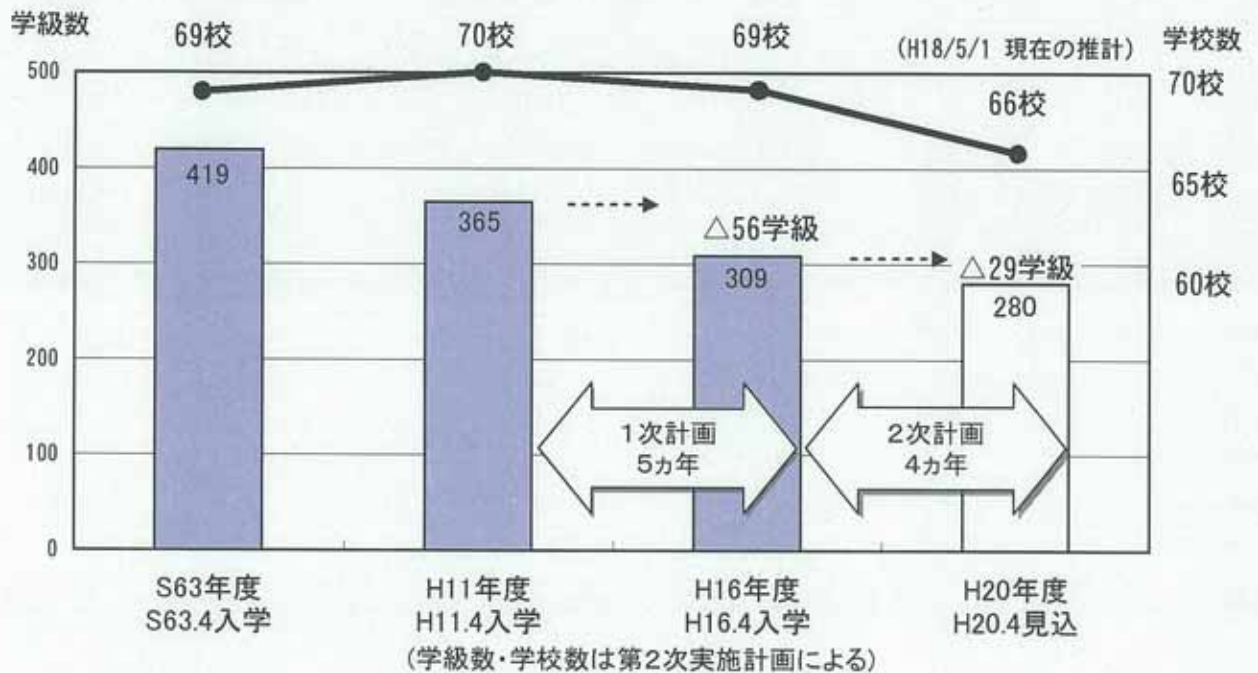
(2) 地区別中学校卒業生数の推移

・減少数は東青が多く、減少割合は西北が高い。



(3) 県立高等学校の学級数(全日制・本校+分校)・学校数推移(募集停止学校を除く。)

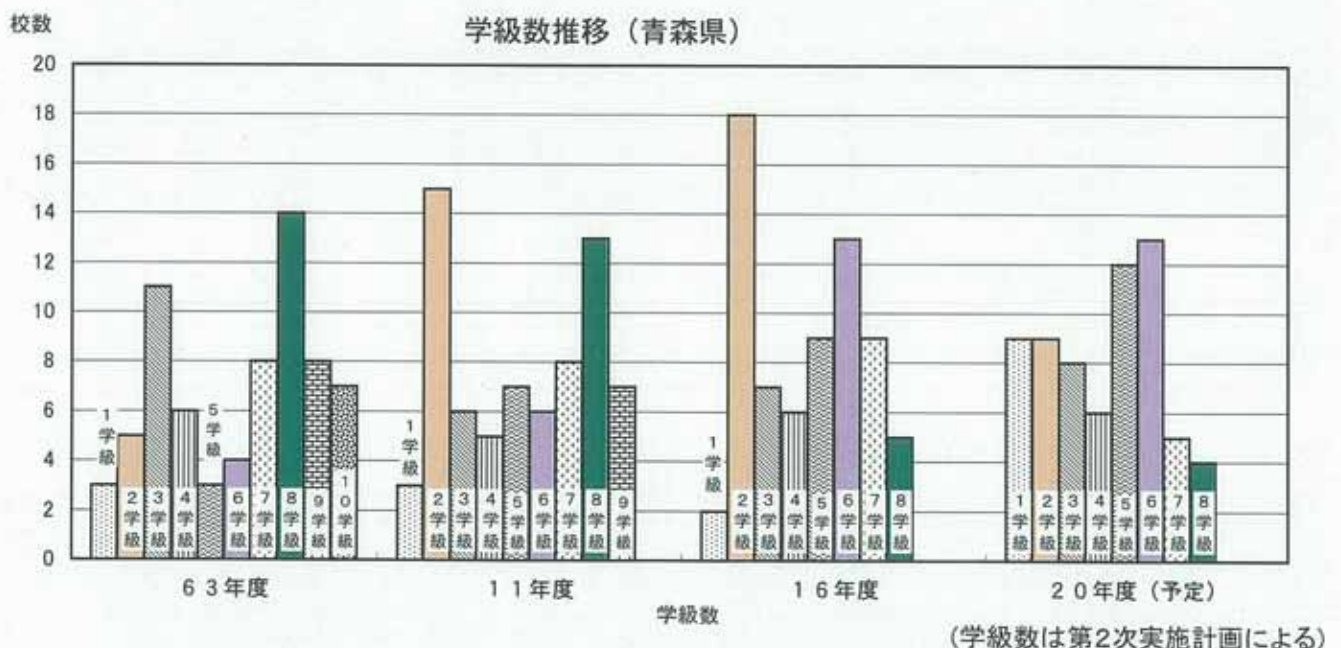
- ・第1次計画56学級減、第2次計画29学級減
- ・尾上総合⑪開校、木造高校車力分校⑯募集停止、野辺地高校横浜分校⑰募集停止、五所川原東及び木造高校稲垣分校⑳募集停止



(4) 学校規模(全日制・本校+分校)

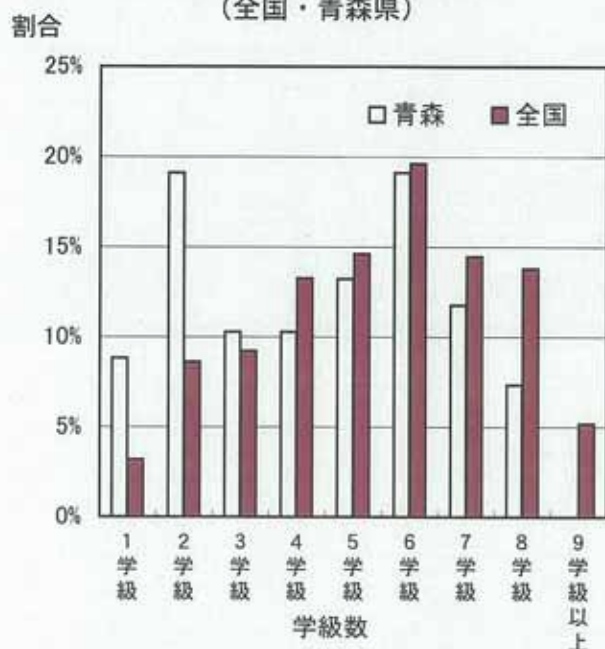
① 青森県の学級数にみる学校規模の推移

- ・63年度当時は3学級と8学級を山とする分布が16年度では2学級と6学級へ移行

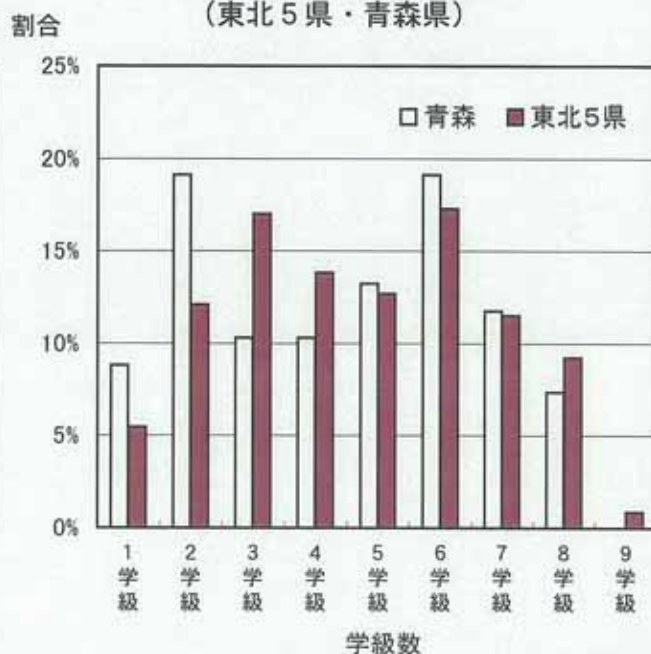


②全国及び東北地区と青森県の比較(公立・全日制)

平成17年度県立高等学校
募集学級数別学校数比較
(全国・青森県)



平成17年度県立高等学校
募集学級数別学校数比較
(東北5県・青森県)



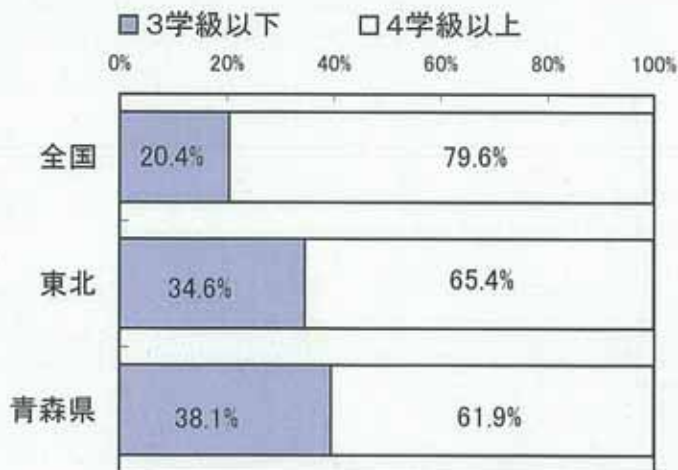
(H18/3 現在)

- ・17年度の1学校当たりの平均学級数
全国5.42、青森県4.41(42番目) ⇒ 小規模傾向
- ・全国では6学級を山とする分布。
東北地区は6学級のほか2、3学級の小規模校の分布も高くなっている。

③本県が望ましいとする学級数(4~8学級)の学校数割合 (公立・全日制)

平成17年度現在

	3学級以下	4学級以上
全国	723	2820
東北5県	120	227
青森県	26	42



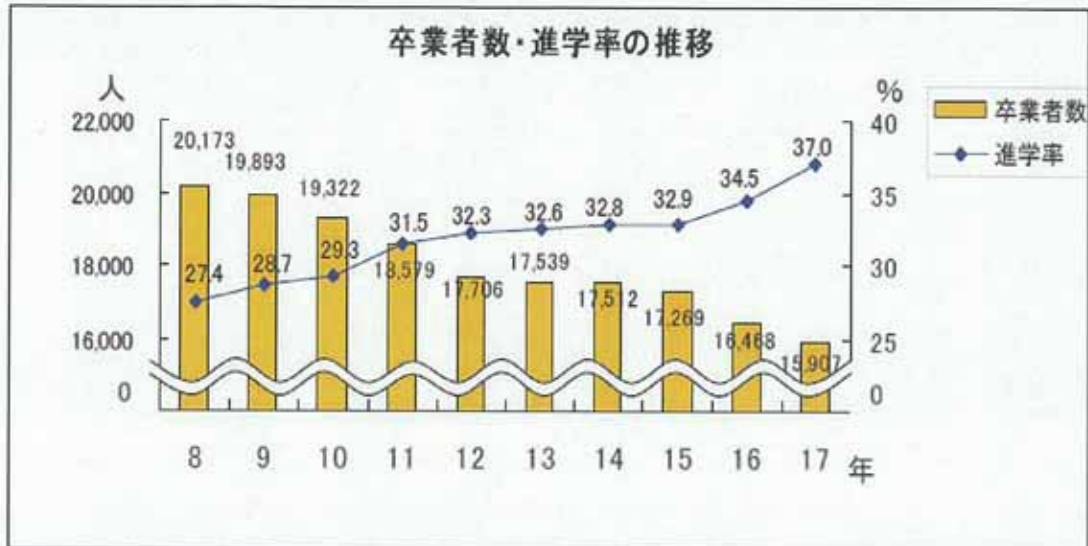
(H18/3 現在)

2 進路状況(青森県)

(1) 大学等進学状況

本県の平成17年3月の高等学校（全日制・定時制課程）卒業生数は、15,907人で、前年より561人減少している。

大学等進学率は37.0%＝過去最高となり、前年より2.5ポイント上昇している。



(H17/5/1 現在)

(2) 就職状況

① 就職者数

就職のみの者4,517人に進（入）学しかつ就職した者56人を加えた就職者総数は4,573人で、前年より365人減少している。

県内県外別では、県内に就職した者は2,694人で、就職者総数の58.9%を占めている。この結果、前年度の県内就職率64.6%より5.7ポイント低下した。

② 高等学校学科別就職状況

就職率は水産科（55.6%）、工業科（53.3%）、農業科（50.1%）、商業（44.5%）、スポーツ科学科（43.8%）等の順になっている。



(H17/5/1 現在)

3 特色ある学科

(1) 平成16年度～平成18年度 中学校卒業予定者の進路志望状況（第1次調査）

・英語科、人文学科は3年連続で1.0倍未満である。

特色ある学科
 志望倍率1.0倍未満
 （県立・全日制）

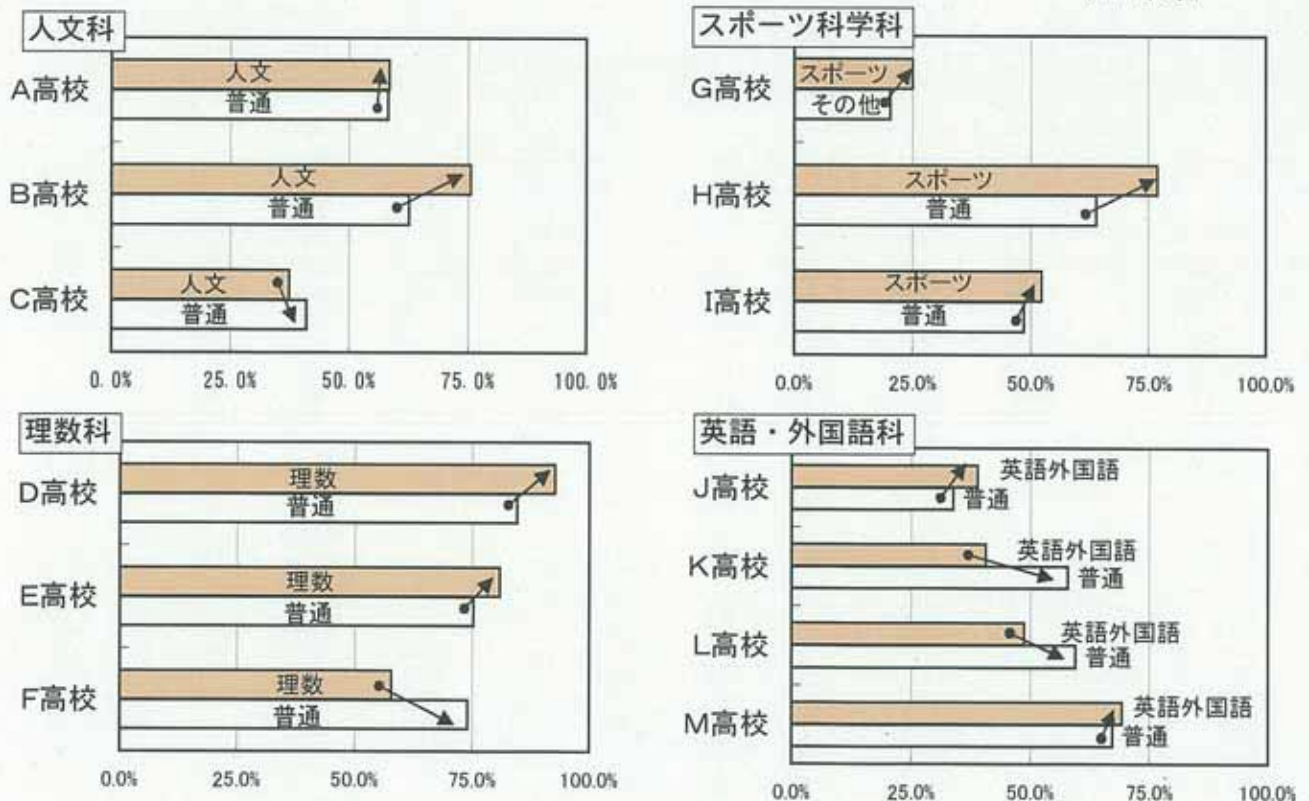
系	学科名	平成16年度			平成17年度			平成18年度		
		募集人数	志願者数	志望倍率	募集人数	志願者数	志望倍率	募集人数	志願者数	志望倍率
普通	普通	6,460	7,612	1.18	6,170	7,266	1.18	6,070	7,130	1.17
職業	農業	920	869	0.94	920	745	0.81	785	867	1.10
職業	工業	1,590	2,225	1.40	1,525	2,004	1.31	1,470	1,889	1.29
職業	商業	1,145	1,298	1.13	1,065	1,245	1.17	1,025	1,170	1.14
職業	水産	160	133	0.83	140	198	1.41	140	184	1.31
職業	家庭	120	224	1.87	120	205	1.71	120	182	1.52
職業	看護	40	44	1.10	40	67	1.68	40	53	1.33
普通	理数	120	118	0.98	120	139	1.16	80	69	0.86
普通	英語	120	70	0.58	120	62	0.52	80	38	0.48
普通	外国語	40	28	0.70	40	56	1.40	40	33	0.83
普通	美術	30	33	1.10	30	30	1.00	30	23	0.77
普通	スポーツ科学	120	164	1.37	120	166	1.38	120	178	1.48
普通	人文	80	64	0.80	80	70	0.88	80	53	0.66
普通	表現	40	43	1.08	40	41	1.03	30	41	1.37
総合	総合	920	1,131	1.23	960	1,157	1.21	960	1,085	1.13
合計		11,905	14,056	1.18	11,490	13,451	1.17	11,070	12,995	1.17

(2) 特色ある学科の大学等進学状況（平成17年度：県立・全日制）

・人文学科、理数科、英語科、外国語科は、同一校普通科と比べて大学等進学率が一部下回る学校もある。

・スポーツ科学科については、全学校共に大学等進学率が普通科を上回っている。

(H17卒業)

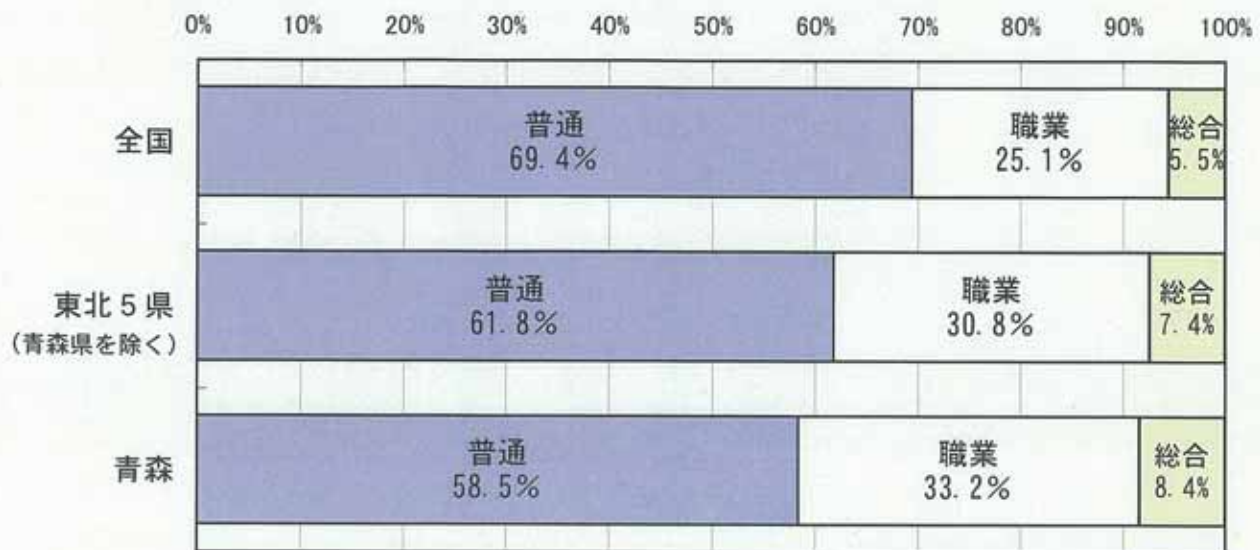


4 普通科と職業学科の割合

(1) 普通科(特色ある学科を含む)・職業学科・総合学科の募集割合

(平成17年度：公立・全日制)

- ・青森県は全国に比べ職業学科の割合が高い。
- ・東北5県(青森県を除く)と青森県の割合は、同傾向にある。



(H18/3 現在)

普通科：普通、理数、英語、外国語、人文、芸術、表現、スポーツ科学
 職業学科：農業、工業、商業、水産、家庭、看護の各科

(2) 普通科・職業学科等の大学等進学状況(県立・全日制)

- ・普通科(特色ある学科を含む)、職業学科の大学等進学率は上昇傾向にある。

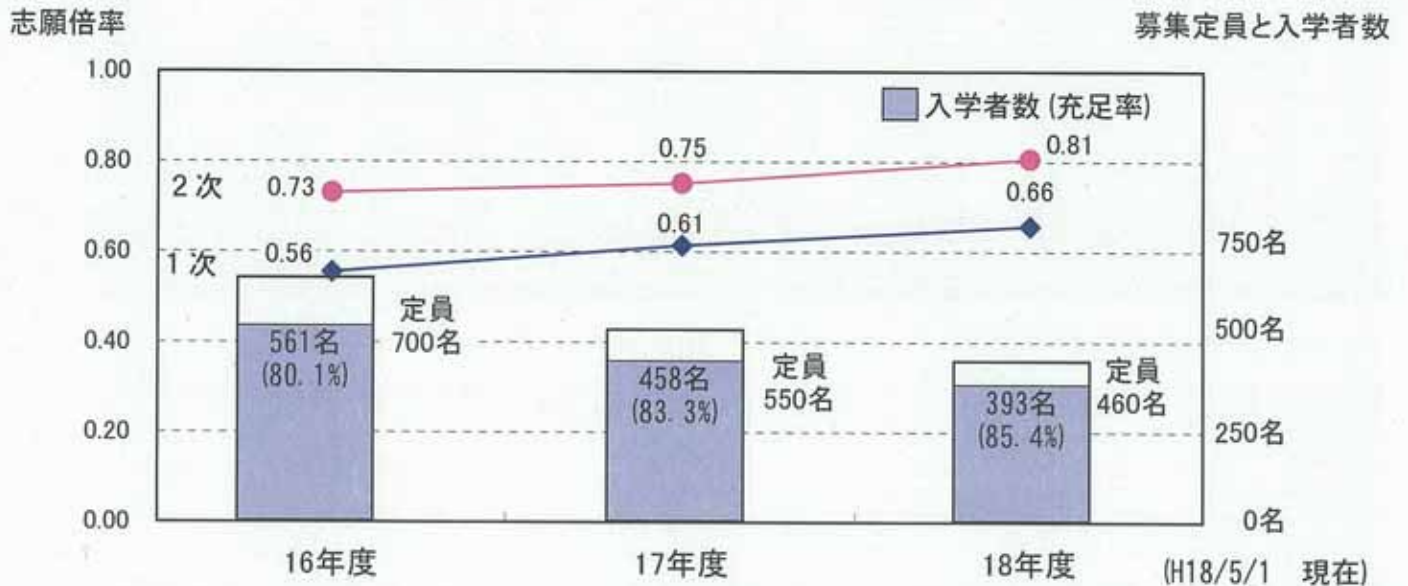


(H17/5/1 現在)

5 校舎制・定時制

(1) 校舎制移行予定の高校における志望状況

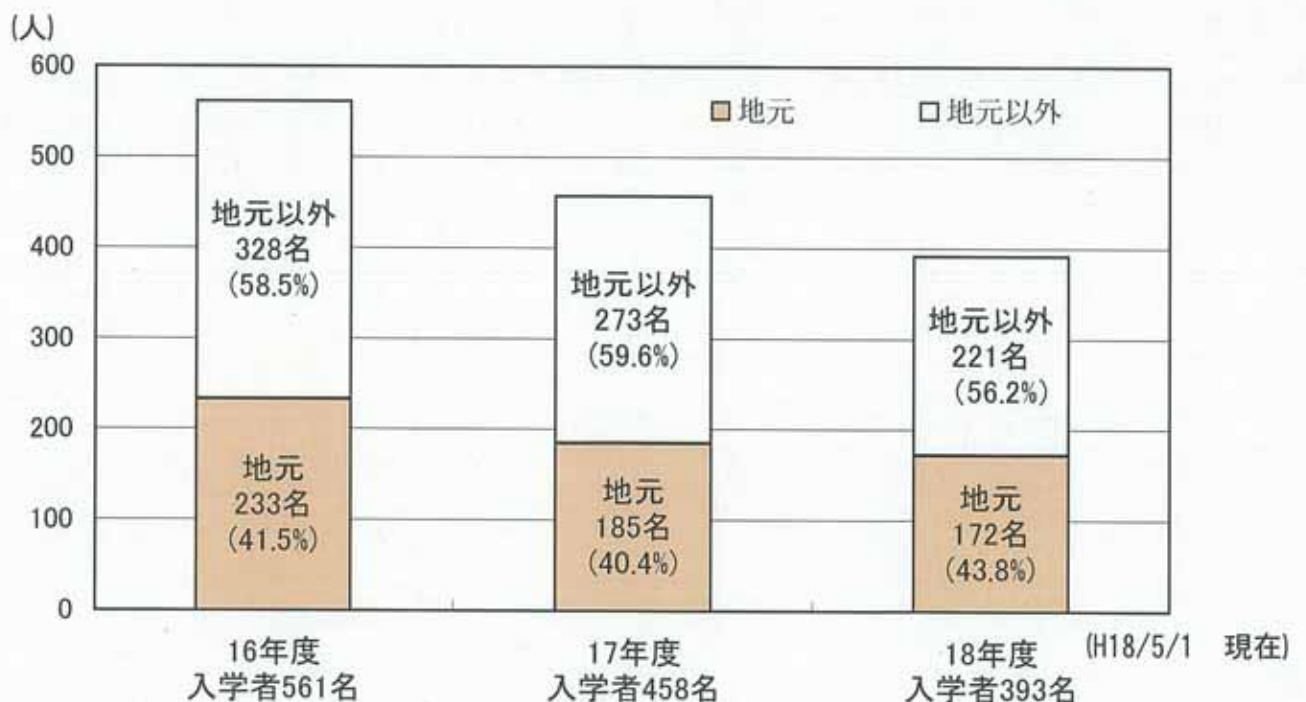
- ・1次志願倍率は上昇しているものの、全体として0.6倍程度で推移している。
- ・平成18年度の2次志願倍率は、前期募集枠に対する倍率であることから高くなっている。
- ・募集定員は3年間で240名減少しているものの、定員に満たない状況が続いている。



(2) 校舎制移行予定の高校における地元生徒の入学状況

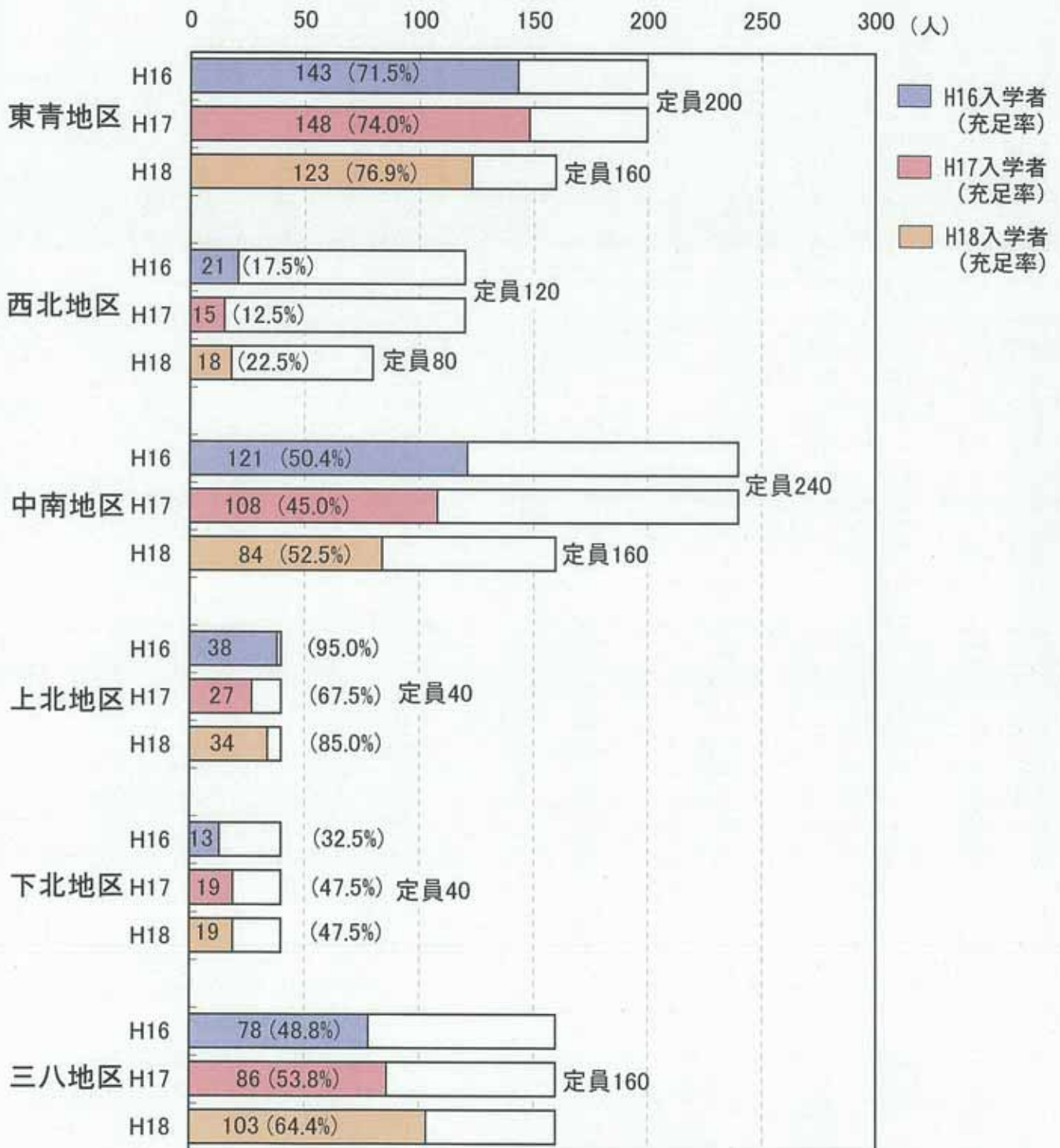
- ・地元生徒の割合は4割程度で推移している。

※地元生徒:高校が所在する市町村(ただし、平成の合併前の行政区)内の中学校から入学した生徒



(3) 定時制高校における入学者状況（公立）

- ・東青、西北、中南は地区定員が減少しているものの、定員に満たない状態が続いている。
- ・西北地区は、80名募集であるが、入学者割合は約2割と低い。



(H18/5/1 現在)

6 中高一貫教育

(1) 本県における連携型中高一貫教育の取り組み（17年度現在）

① 田子町立田子中学校と青森県立田子高等学校

【学校名】	田子町立田子中学校 青森県立田子高等学校	【学校の特色等】（①設置形態、②学校の特色）
【設置年度】	平成13年度	①既設の中学校と既設の高等学校の連携 ②・「総合的な学習の時間」等を連携して地域を担う人材を育成 ・地域学習を重視
【課程学科】	全日制普通科	
【学校規模】	中学校 9クラス 高等学校 6クラス	

② むつ市立大湊中学校と青森県立大湊高等学校

【学校名】	むつ市立大湊中学校 青森県立大湊高等学校	【学校の特色等】（①設置形態、②学校の特色）
【設置年度】	平成14年度	①既設の高等学校を総合学科に改編して、既存の中学校と連携 ②・「総合的な学習の時間」等を連携して地域を担う人材を育成 ・地域学習を重視
【課程学科】	全日制総合学科	
【学校規模】	中学校 6クラス 高等学校 15クラス	

(2) 本県における併設型中高一貫教育の取り組み

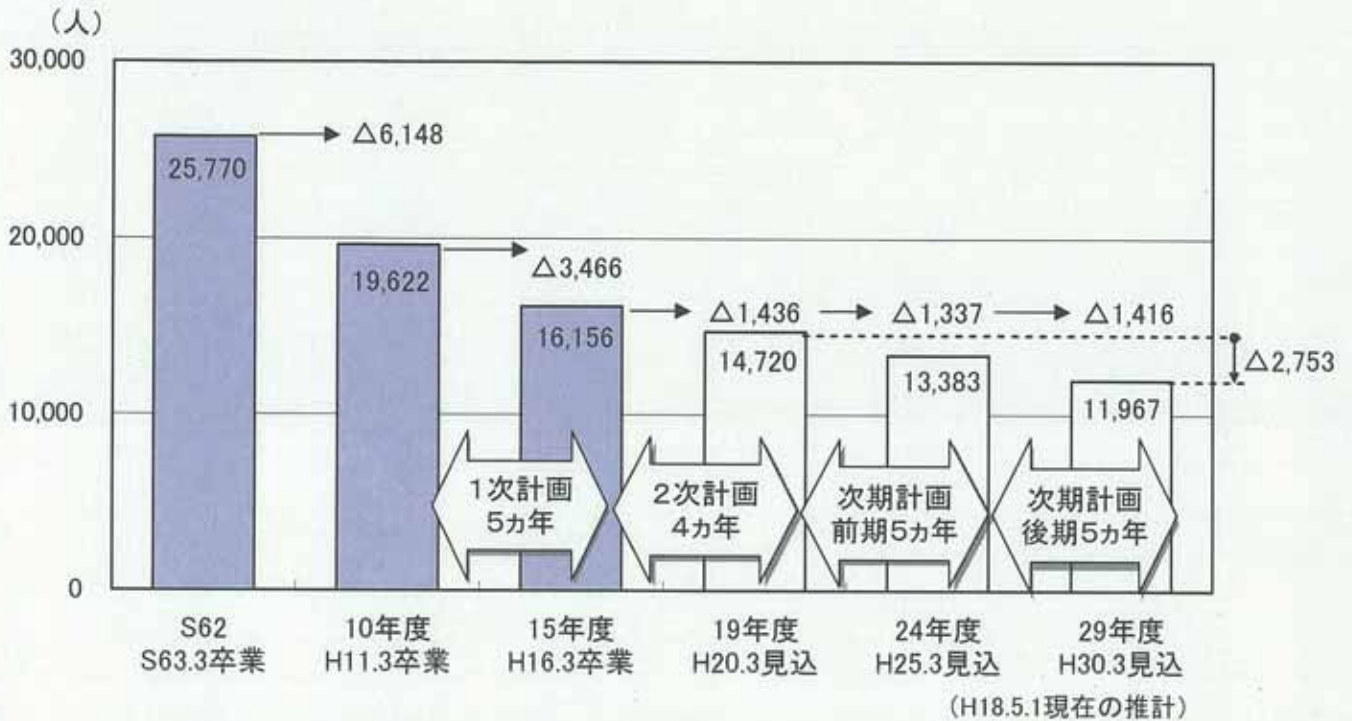
平成19年4月に県立中学校を新設し併設型中高一貫教育を導入予定

【学校名】	県立三本木高等学校附属中学校（仮称） 青森県立三本木高等学校	
【設置年度】	平成19年度	【学校の設置形態】 既存の高等学校に新設の県立中学校を併設
【課程学科】	全日制普通科	
【学校規模】	中学校 6クラス 高等学校 18クラス	

7 第2次計画以降の中学校卒業生数

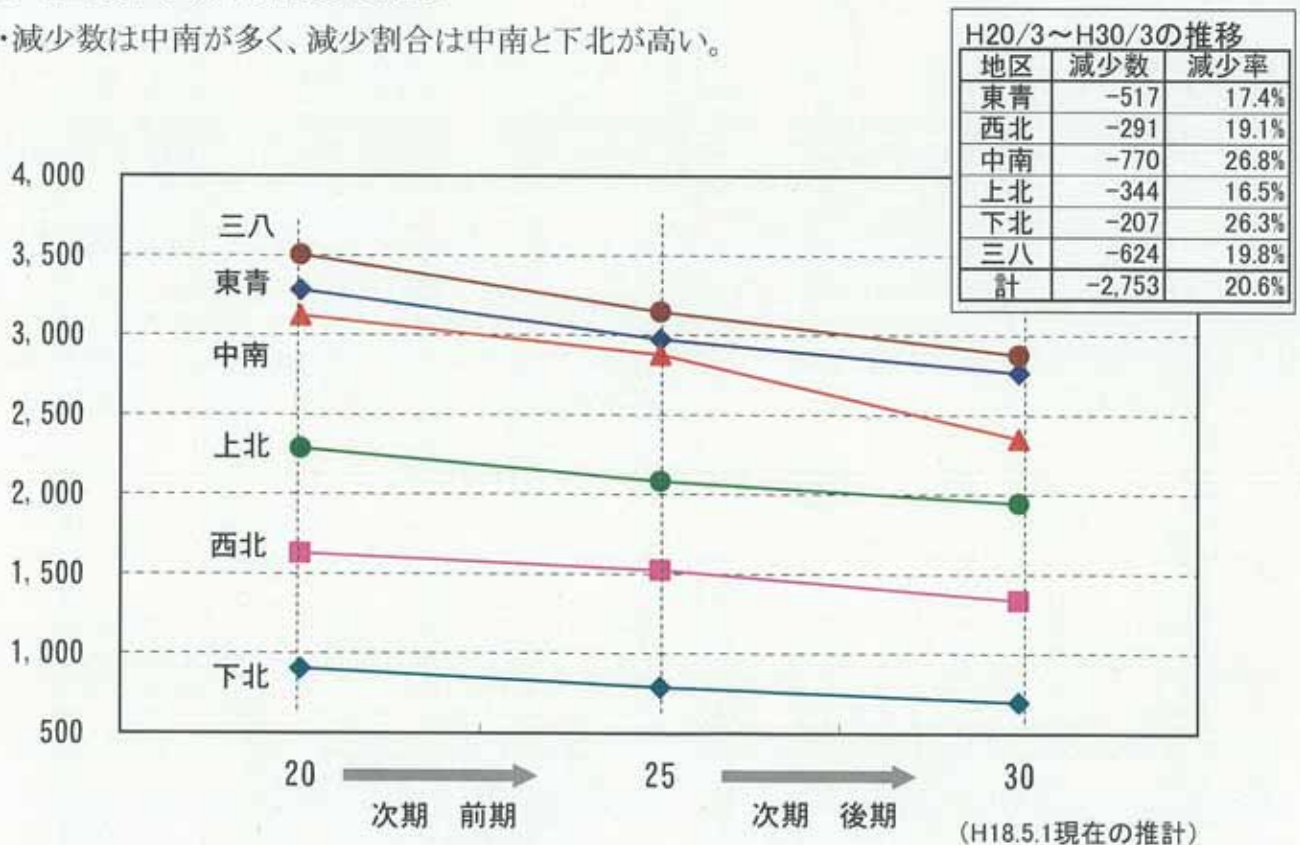
(1) 中学校卒業生数の推移

・次期計画を前期5年、後期5年を想定した場合 前期1,338人減、後期1,416人減



(2) 地区別中学校卒業生数の推移

・減少数は中南が多く、減少割合は中南と下北が高い。



(3) 県立高等学校の学級数(本校+分校)・学校数推移(募集停止学校を除く。)
 ・21年度以降30年度までに53学級減

